インジウムを用いた太陽ニュートリノ半導体検出器の開発XIV

日本物理学会 第67回年次大会

関西学院大学

2012年3月24日

宮城教育大学 福田善之 東大宇宙線研 森山茂栄、関谷洋之 東京大学素粒子センター 難波俊雄 浜松ホトニクス固体事業部 井澤利之、朝倉雅之

Capture of low energy solar neutrinos by ¹¹⁵In

R.S.Raghavan Phs.Rev.Lett37(1976)259



Nuclear Physics A 748 (2005) 333-347

¹¹⁵In + ν_e → ¹¹⁵Sn* + e⁻ ¹¹⁵Sn*(4.76µs) → ¹¹⁵Sn + γ₁(115keV) + γ₂(497keV)

Advantage

- large cross section (~640SNU)
- direct counting for solar neutrinos
- sensitive to low energy region $(E_v \ge 125 \text{keV})$
- energy measurement (E_e = E_v 125keV)
 triple fold coincidence to extract neutrino signal from huge BG (e₁ +γ₂ + γ₃)
- Disadvantage
- natural β -decay of ¹¹⁵In
- $(\tau_{1/2} = 4.4 \times 10^{14} \text{ yr}, \text{Ee} \ge 498 \text{keV})$
- possible BG due to correlated coincidence by radiative Bremsstrahlung

<u>Requirement for the detector</u>

- 1. Good energy resolution : 10%(FWHM)
- 2. Fine segmentation $(10^4 10^5)$
- 3. High efficiency γ detection

VB基板によるInP検出器の性能評評価



2012年3月24日

日本物理学会 第67回年次大会

IPNOS phase-I experiment for Solar v

experiment

InP multi-pixel detector inside of Liquid Xenon.

30cm cubic chamber (like XMASS 100kg prototype) includes ~10kg InP detector



液体キセノンのシンチレーション光も観測

日本物理学会 第67回年次大会

<u>薄膜電極型InP検出器の開発</u>





 液体キセノンのシンチレーション光の減衰を 抑える必要がある
 Au/Crの電極の厚みを50Å/50Å (5nm)の薄 膜電極型InP検出器を開発

薄膜電極型InP検出器(VB)の性能評価

 Vertical Bridge法によ るInP検出器(Au 50 Å/ Cr 50Å) □比抵抗が大きい $(4.5e7\Omega cm \rightarrow 6.4e7\Omega cm)$ 暗電流が小さくなり、ノ イズが減少 ■EPDが小さい $(5000 \text{ cm}^{-2} \rightarrow 1500 \text{ cm}^{-2})$ ドリフト長が長くなり、 分解能が改善



分解能などの性能は同じ

薄膜電極型InP検出器によるCsIシンチレ ーション光測定(1) ■ Cslシンチレータ ²⁴¹Amのα線による TYPE シンチレーション光 Man . 22000photon/MeV アルミマイラー



2012年3月24日

<u>Au/Cr電極の透過率@550nm</u>



薄膜電極InP検出器によるCsIシンチレー ション光測定(2) ■ 予想電荷量:0.05fC 立体角:0.017 ノイズに隠されてしまう 立体角を増やすため、 ミラーを導入(右写真) ■予想電荷量(ミラー導) 22000photon/MeV × 4MeV 入後):0.8fC ×0.19(立体角)×0.8(量子効 率) × 0.85(ガラスの透過率) × Auの透過率×Crの透過率 60keVγ線と同等の信号

が期待される

2012年3月24日

日本物理学会 第67回年次大会

 $\times 1.6 \times 10^{-19} C$

<u>薄膜電極InP検出器によるCsIシンチレー</u> ション光測定(3)

 ²⁴¹Amのガンマ線は 観測されている
 Csl シンチレーショ ン光の信号が観測されなかった

予想値より小さい?

結果

VB法による薄膜電極型InP検出器を開発
 高バイアス電圧では、VCZと同程度の性能
 低バイアス電圧でも信号が確認(ガンマ線による応答性は従来の検出器以上)
 CsIによるシンチレーション光観測実験
 立体角を増やして観測したが、信号の大きさは予想より小さく、観測することができなかった。

更に立体角を稼ぐ方法を考える
 量子効率(光子1個に対する電子・ホール対の生成確率)の再評価が必要か(0.8と仮定したが、もっと値が小さい可能性?)